

プログラム

開会挨拶 萩野静男(早稲田大学)(13:15~)
第1部 (13:20~)
基調報告 坂巻彩華(桐朋学園大学附属図書館)
「グルック《オルフェーオとエウリディーチェ》の
作品概要

~「改革」の背景と18世紀における上演をめぐる」
研究発表1 大崎さやの(東京藝術大学)

「オルフェーオをめぐるテキストの変遷
~イタリアの演劇作品とオペラ台本を例に」

研究発表2 森立子(日本女子体育大学)
「18世紀のバレエ改革とグルック」

研究発表3 萩原里香(武蔵野音楽大学)
「オペラ改革の前と後

~《エツィオ》2つの版の比較を通して」

演奏1 グルック《エツィオ》より抜粋

質疑応答1 コメンテーター 江口大輔(早稲田大学)
休憩

グルック・シンポジウム

オペラ《オルフェーオとエウリディーチェ》とその周辺
オペラ・アリアの実演付き

2022年12月18日(日)13:15~19:00(開場13:00)

早稲田大学早稲田キャンパス小野記念講堂
会場とオンラインの同時開催 事前登録制 参加無料

第2部 (16:00~)

研究発表4 大河内文恵(東京藝術大学附属高校)

「グルック《オルフェーオとエウリディーチェ》の
ドイツ上演をめぐる」

研究発表5 吉江秀和(杏林大学)

「グルック《オルフェーオとエウリディーチェ》
~1770年代のロンドン上演をめぐる」

研究発表6 森本頼子(名古屋音楽大学)

「18世紀ロシアにおける改革オペラ上演
~宮廷劇場と農奴劇場を中心に」

研究発表7 萩野静男(早稲田大学)

「グルック《オルフェーオとエウリディーチェ》の
映像作品について」

演奏2 グルック《オルフェーオとエウリディーチェ》より抜粋

質疑応答2 コメンテーター 江口大輔(早稲田大学)

閉会挨拶 大河内文恵(東京藝術大学附属高校)

♪演奏♪

青木洋也(カウンターテナー)

澤江衣里(ソプラノ)

中谷路子(ピアノ)



会場・オンラインとも、参加希望者は
下記URLまたは左のQRコードより
12月15日(木)までにご登録をお願い致します。
(会場参加は先着順となります)

<https://forms.gle/u6Fb2H7T72txzLoeA>

お問い合わせ: glucksympo2022@gmail.com

主催:早稲田大学総合研究機構オペラ/音楽劇研究所

後援:早稲田大学総合研究機構



〈開催概要〉

早稲田大学総合研究機構オペラ／音楽劇研究所「バロック・オペラ」ワーキンググループ企画によるシンポジウムの第2回として、クリストフ・ヴィリバルト・グルック(1714-1787)を取り上げます。グルックはバロック・オペラから近代的なオペラへの転換期において、オペラ改革を行った作曲家として知られます。なかでも改革オペラの第1作にあたる《オルフェオとエウリディーチェ》(1762)は、台本やバレエにおける変革の動きと強い結びつきがあるだけでなく、初演後ヨーロッパ各地において様々に改変された形で上演されたことにより、多方面からのアプローチが可能な作品といえます。

シンポジウム前半では、《オルフェオとエウリディーチェ》の作品概要およびオペラ改革の概略を明らかにした上で、台本・バレエから見た位置づけを検討し、さらに本作初演の前後に上演されたグルック作曲による他のオペラの二つの版を比較考察します。後半では、同時代のドイツ、イギリス、ロシアにおける《オルフェオとエウリディーチェ》上演を取り上げ、最後に現代における作品受容としてオペラ映画を扱います。演奏による解釈も交えつつ、パネリストがそれぞれの視点で考察し、改革オペラを多角的にとらえ直す場を提供することを目指します。

企画：大河内文恵(バロック・オペラWG代表)

〈発表要旨〉

坂巻彩華：《オルフェオとエウリディーチェ》の作品概要 ～「改革」の背景と18世紀における上演をめぐる

本作が「改革オペラ」と位置付けられる背景、および各国における上演と改変について論じる。台本作家カルツァビージや舞踊家アンジョリーニらの創作理念、マリア・テレジア治世下のブルク劇場における上演レパートリーの変化がグルックの創作に大きく影響していることをまず提示する。次に、18世紀のヨーロッパ各国における《オルフェオとエウリディーチェ》の上演記録から、各地の上演目的や慣習に合わせて行われた改変について概観する。

大崎さやの：オルフェオをめぐるテキストの変遷 ～イタリアの演劇作品とオペラ台本を例に

オルフェオをめぐるイタリア語の上演用テキストは、1480年頃の上演とされるアンジェロ・ポリツィアーノ作『オルフェオの寓話』を嚆矢として数多く存在する。本発表ではイタリア語で書かれた代表的な上演用テキストを時代順に取り上げ、オルフェオをめぐるテキストの変遷を辿ることを通じて、グルックとカルツァビージによる《オルフェオとエウリディーチェ》の改革オペラとしての特質を検討したい。

森立子：18世紀のバレエ改革とグルック

グルックによるオペラ改革と同時期に、舞踊界においても、ノヴェール、アンジョリーニらによるバレエ改革の理論が提唱されていた。啓蒙の時代を背景として生まれたこれら二つの改革は、基本的な方向性を共有するものとして捉えることが可能である。そこで本発表では、これらの改革における理念的共通性について論じ、これを踏まえた上で、《オルフェオとエウリディーチェ》におけるバレエ音楽の扱いについても検討する。

萩原里香：オペラ改革の前と後 ～《エツィオ》2つの版の比較を通して

メタスタージオタイプの台本を否定しオペラ改革を行ったグルックだが、活動初期には同時代の作曲家と同様、メタスタージオの台本で多くのオペラを書いている。そのうちの一つである《エツィオ》(1750)は、改革オペラ《オルフェオとエウリディーチェ》(1762)の発表後に第2版(1764)が作られている。改革の前後で、同じ台本を扱ったオペラにどのような違いが見られるか、台本と音楽両面より比較考察を行う。

大河内文恵：グルック《オルフェオとエウリディーチェ》のドイツ上演をめぐる

1762年のヴィーン初演以降、《オルフェオとエウリディーチェ》は、ドイツ諸都市でも上演された。各都市での上演状況を整理するとともに、本発表は、1773年ミュンヘン上演に焦点を当てる。この上演はミュンヘン宮廷の作曲家による改作と考えられているが、登場人物が2人増え、ヴィーン版にはないアリアが追加されるなど興味深い変更が見られる。グルックのオペラのローカライズにおけるケーススタディとして提示したい。

吉江秀和：グルック《オルフェオとエウリディーチェ》～1770年代のロンドン上演をめぐる

1770年にロンドンのキングズ劇場で、グルックの作品を基にJ.C.バツハらによる新たなアリアなどが追加されたパステッチョ版が上演され、翌年にも初演版から変更を加えたものが再演された。また、1773年には、これらとは異なる版が上演されている。本発表では、1770年版を中心に上演に至る経緯や変更点を確認したうえで、一連のロンドン版《オルフェオとエウリディーチェ》の上演状況を整理する。

森本頼子：18世紀ロシアにおける改革オペラ上演 ～宮廷劇場と農奴劇場を中心に

18世紀後半のロシアでは、グルックの《オルフェオとエウリディーチェ》やトラエッタの《アンティゴナ》といったイタリア語の改革オペラが宮廷劇場で上演された。一方で、私設の農奴劇場では、グルックの《アルミード》やサッキニーの《ルノー》などのフランス語の改革オペラも上演された。本発表では、ロシアにおける改革オペラ上演の系譜をたどるとともに、それらがロシア・オペラ史にどのような足跡を残したかを考察する。

荻野静男：グルック《オルフェオとエウリディーチェ》の映像作品について

本発表では近年のグルック《オルフェオとエウリディーチェ》の映像作品8点を取り上げる。それらはフランス、イギリス、イタリア、アメリカ、スペイン、チェコのオペラ劇場における上演の録画であり、それぞれ魅力的な特徴を持つプロダクションとなっている。ここでは各プロダクションの概要を述べるとともに、相互の比較を行う。特にチェコ制作のオペラ映画とされるものに焦点を絞り、主人公役の歌手(俳優)の行動を手掛かりに、その制作コンセプトならびにその意図の解明を試みたい。

コメンテーター：江口大輔

〈演奏曲目〉

《エツィオ》(1764)より

- ・第1幕最終場 二重唱 “Va, ma tremo al tuo periglio”
- ・第3幕第3場 エツィオのアリア “Se il fulmine sospendi”
- ・第3幕第9場 フルヴィアのアリア “Ah non son io, che parlo”

《オルフェオとエウリディーチェ》

- ロンドン上演版(1770)より
- ・第1幕第5場 エウリディーチェのアリア “Obliar l' amato sposo” (J.C.Bach作曲)
- ウィーン上演版(1762)より
- ・第3幕第1場 二重唱 “Vieni appaga il tuo consorte”
- ・第3幕第1場 エウリディーチェのアリア “Che fiero momento”
- ・第3幕第1場 オルフェオのアリア “Che farò senza Euridice?”等



青木洋也(カウンターテナー)



澤江衣里(ソプラノ)



中谷路子(ピアノ)

早稲田大学 小野記念講堂(早稲田大学早稲田キャンパス 27号館 地下2階)

<アクセス> JR山手線/西武新宿線:高田馬場駅より徒歩20分 地下鉄東京メトロ東西線:早稲田駅3b出口より徒歩5分

東京さくらトラム(都電荒川線):早稲田駅より徒歩5分 都営バス:早大正門前停留所より徒歩1分

※アクセスマップ https://www.waseda.jp/school/art/access/ono_auditorium/